

2023 平和行動 in 沖縄「2023 平和オキナワ集会」 芳野会長挨拶

全国各地から、ご参集いただきました、構成組織・地方連合会の皆さん、こんにちは。連合会長の芳野でございます。

本日は、連合「2023 平和オキナワ集会」へのご参加、本当にありがとうございます。主催者を代表して、ご挨拶を申し上げます。

冒頭、本日ご多用のところ、御来賓としてお越しいただきました、沖縄県商工労働部長の松永様をはじめ、国会議員の皆さまに感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。

本日、6月23日は、沖縄の「慰霊の日」です。

78年前の1945年3月26日朝、アメリカ軍が慶良間諸島に上陸。その後、4月1日朝には沖縄本島に上陸しました。約3ヵ月にわたり国内最大の地上戦が続き、20万あまりの方々が亡くなりになりました。

私は、この集会に先立ち、摩文仁の平和祈念公園で開催された「沖縄全戦没者追悼式」に、連合の代表として参列し、沖縄戦で亡くなられたすべての方々に、心から哀悼の意を捧げてまいりました。

亡くなられたすべての方々の想いを胸に、本日ご参集の皆さんと、平和の尊さ、戦争の悲惨さを、次の世代にしっかりと語り継ぎ、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを、固く誓い合いたいと思います。

また、白梅学徒隊として沖縄戦を経験し、これまで語り部として活動してこられた、「中山きく」さんが、本年1月12日に94歳でお亡くなりになりました。

連合が戦後70年の節目に取り組んだ、平和運動継承のためのDVDにもご出演いただき、戦争の過ちを二度と繰り返してはならないという強い思いとともに、負傷兵の看護など、悲惨な体験を語っていただきました。

ここに、平和を願い、私たちの未来のため、ご尽力いただきましたことに感謝を申し上げ、改めてご冥福をお祈りいたします。

さて、戦後78年が経過しようとしている今もなお、日本のわずか0.6%の面積の、ここ沖縄に、在日米軍基地・施設の約70%が集中しています。基地に由来する事件・事故は後を絶たず、日米地位協定という大きな壁が、問題の解決を阻んでいます。

連合は結成以来、「在日米軍基地の整理・縮小」・「日米地位協定の抜本的見直し」に向けて、取り組みを進めてきましたが、未だその解決には至っていません。

政府は、昨年12月に「安全保障関連3文書」を閣議決定しました。これは、日米同盟の抑止力・対処力の強化、同志国などとの連携強化とともに、自衛隊に「反撃能力」を保有させるなど、防衛体制を強化していく方針が打ち出されたものです。

わが国を取り巻く、安全保障環境の認識そのものを否定するわけではありませんが、その必要性や妥当性について、私たち国民に十分な説明がない中で、財源論ばかりが

先行して取り沙汰され、先の国会で「防衛費増額に向けた財源確保法」が可決成立したことに、違和感を覚えざるを得ません。

本来、話し合いによる外交努力を積み重ねることこそが、戦争のない、平和で安定した社会を築いていく上で、必要なことであり、防衛力の強化はその補完に過ぎないはずです。

しかし、ここ沖縄を含めた、南西地域の防衛体制強化に関しては、地政学的リスクも相まって、地域住民の生命・生活に関わる危機感や不安の声が増すばかりです。

加えて、沖縄に偏った基地の実態や日米地位協定の問題も含めて、地域住民との十分な意思疎通をはかりながら、国や自治体が説明責任を果たすことが極めて重要であるにも関わらず、それがなされていないことは大きな問題です。

連合は政府に対して、国民全体の問題として徹底した議論を重ねるとともに、地域の想いに心を寄せる努力を、強く求めています。

先ほどは、「日米地位協定と沖縄」をテーマに、山本章子先生にご講演をいただきました。沖縄の抱える問題について、本日ご参集の皆さんと、共に学び、想いを共有できたのではないかと思います。

「2023 平和行動 in 沖縄」のテーマは、「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で、恒久平和を実現しよう」です。本日はこの平和オキナワ集会、そして明日は、私も参加いたします、ピース・フィールド・ワークが行われます。

連合沖縄・連合大分の青年・女性委員会のピースガイドとともに、約 500 人の参加者の皆さんが米軍基地や南部戦跡を巡ります。

ピースガイドの皆さんは、この間、仕事やプライベートの合間を縫って、何度も学習会を重ね、準備をしてこられました。連合本部を代表して心より感謝を申し上げます。

78 年前、この地で何が起きたのか。参加される皆さん一人ひとりが、沖縄の実相に触れ、多くのことを感じ、学んでいただくことを期待します。

最後になりますが、今回の「2023 平和行動 in 沖縄」に参加し、目にしたこと、聞いたこと、知ったことを、ぜひ家庭や職場や地域に持ち帰り、伝えてください。

将来にわたって平和運動を継承し、継続していくためには、私たちが語り継いで、次の世代へと確実に繋いでいかなければなりません。

決して他人ごとではありません。私たち一人ひとりが平和運動の担い手・発信者となり、この輪を一緒に広げていきましょう。

平和なくして、私たちの暮らしも労働運動もありません。皆さんの力で、世界の恒久平和を実現する。この強い想いと決意を胸に、主催者を代表しての挨拶とさせていただきます。

ともに頑張りましょう。ありがとうございました。

以 上